



# 子どもの個性と歩む

名護療育園

作業療法士

高原悠二

## 感覚遊具の部屋

日常生活や学校環境において「落ち着きがない」「集中力がない」「集団場面が苦手」といった個性をもたれた子どもが作業療法に来られます。こういった個性は、子どもが環境に適應する事を難しくします。

発達障害の作業療法では感覚遊具を用いた遊びを通して、環境に適切な行動・運動・学習の発達を促していきます。

自身の特性とうまく付き合っていきながら日常生活を過ごしていく為の支援をしています！



## 視覚支援



活発なAくん！あいさつにも気づかず一目散に走っていく先には大好きなおもちゃ。帰る時には「帰たくない」と泣く事も。このような行動は一見「落ち着きがなく…」と感じる事もありますが、作業療法を通してAくんは目で時間などを確認して行動が出来ることが分かりました。

そこで時間と活動を照らし合わせられる表を作ると、「次は…」と流れを意識した言葉が出たり、終わる事へも少しずつ見通しを持ちやすくなり、笑顔で帰る事も多くなりました。子供の表現方法はいろいろですが、作業療法はその気持ちと行動の変化に携える事が出来る、魅力的な仕事だと思います。